

(4) ②様式第4号-2 (報告書)

NITS・教職大学院等	実施機関名・連携機関名 実施機関：上越教育大学 連携機関：上越市教育委員会（上越市立教育センター）、上越市立春日新田小学校
コラボ研修プログラム	テーマ：平成29年告示小・中学校学習指導要領において、「各教科等と通級による指導との関連を図るなど、教師間の連携に努めるものとする」と明記されたことを踏まえ、「各教科等と通級による指導との関連をいかに図りながら教科の授業を実施するか」をテーマに設定した。
支援事業報告書	研修等名：【NITS・上越教育大学教職大学院コラボ研修】 通級による指導における自立活動の個別の指導計画を活用した授業づくり研修 —自立活動の個別の指導計画を活用した通級担当教師と在籍学級担任教師の連携モデル構築を目指して—
	開催期間：令和3年4月19日（月）～10月1日（金） 開催場所：上越市立春日新田小学校（新潟県上越市春日新田1274） 参加人数（総数）と参加者の属性：（総数48人）上越市立春日新田小学校教員26人、上越市内小学校教員15人、大学院生3人、大学教員3人、上越市教育委員会指導主事1人

内容

本研修では、平成29年告示小・中学校学習指導要領において、「各教科等と通級による指導との関連を図るなど、教師間の連携に努めるものとする」と明記されたことを踏まえ、次の2点に取り組んだ。①上越市教育委員会・上越市立春日新田小学校と協働し、自立活動の個別の指導計画を活用した教師間の連携モデルを検討した。②検討したモデルに基づいて、抽出児（通級による指導を受けている児童）を取り上げて教科の授業実践を行い、その成果を発表する研修会を開催した。①②の内容について以下に示す。

①上越市教育委員会（上越市立教育センター）・上越市立春日新田小学校との協働による、自立活動の個別の指導計画を活用した教師間の連携モデルの検討を以下の日程で実施された。なお、令和3年8月25日（木）16時～18時、9月3日（金）9時30分～12時、9月14日（火）15時30分～17時30分、9月24日（金）11時20～12時30分、9月27日（月）9時30分～11時、9月28日（火）8時40分～10時30分、9月29日（水）8時40分～10時30分については、大学教員あるいは上越市教育委員会指導主事が、上越市立春日新田小学校へ出向き、授業参観や、授業づくりのための協議等を行った。

- ・4月19日（月）通級担当教師による1年生クラスへの持ち込み授業①（1年生の実態把握）
- ・4月20日（火）1年生の学習参観・本研修抽出児の決定
- ・5月14日（金）抽出児童の保護者の承諾
- ・5月17日（月）公開授業教科の検討
- ・6月4日（金）通級担当教師による1年生クラスへの持ち込み授業②（抽出児クラスの実態把握）
- ・8月5日（木）個別の指導計画の作成・授業指導案の作成
- ・8月23日（月）研究推進委員会での指導案検討
- ・8月25日（水）自立活動の理念、教科と自立活動の関連の確認
- ・9月3日（金）授業や休み時間の行動観察
- ・9月14日（火）カード整理法（北川・安藤,2019）を活用した実態把握図の作成
- ・9月24日（金）本時のねらいと内容の検討、本児の主体的な学びを促す教材の検討
- ・9月27日（月）抽出児の中心的課題の再確認
- ・9月28日（火）教授法（イラストやモデルの提示・個別指導のタイミング等）の検討
- ・9月29日（水）30日（木）授業における手立ての効果検討、通級指導教室での指導内容検討

②授業づくり成果発表会

- ・10月1日（金）授業公開と協議会

①により検討を行ってきた1年生の国語の授業について、上越市教育委員会（上越市立教育センター）、上越市立春日新田小学校との連携により公開し、授業づくりについての研修会を実施した。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、直接の授業参観は、校内の教員だけで実施し、外部の教員は授業を直接観察することができないため、協議会の前に本授業の録画を視聴してもらう時間を設けた。

## 成果

- ①担任として、通級の職員とどうかかわっていくことが子どもにとって良いかを学んだ。
- ②通級指導の般化につながるよい実践でした。
- ③通級指導教室を利用している児童が1つの単元の中で力を発揮していく姿が見られました。確実に連携の成果がみられました。しかし、ここまで丁寧に一人一人にかかわれるかという難しさを感じました。
- ④協議会のビデオ参観は抽出児と全体のカメラを並べて見ることは初めてでしたが、抽出児の実態、課題をみとるのに良いなと思いました。
- ⑤通級での学びとクラスの学びが一体となっていて大変勉強になった研修でした。本当にありがとうございました。
- ⑥校内研修として全職員が参加でき、ありがたかったです。
- ⑦通級と通常の学級担任が歩調を合わせ、児童の実態に合わせた授業を積み重ねていくことが大切だと感じました。

## アイデアや工夫したこと

- ①今年度は、安藤（2001）、北川・安藤（2019）の知見を踏まえた教師間協働による自立活動の個別の指導計画作成方法を取り入れて授業づくり研修を実施した。
- ②新型コロナウイルス感染拡大防止のため外部の教員は授業を直接観察することができないため、協議会の前に録画をみてもらった。その際、抽出児童に焦点化して撮影した映像と教室全体を写した映像の2つを同期させて再生した。抽出児童の学びの姿と学級全体の様子を同期させて提示することができた。
- ③校内研究推進部と連携して実施したことにより、全校職員が、通級による指導における自立活動の個別の指導計画を活用した教科の授業づくりについて学ぶ機会となった。

## <写真・図など>

- ①自立活動の個別の指導計画を活用した教師間の連携モデルの検討  
北川・安藤（2019）を参考に、教師間連携による実態把握図を作成し、そこから抽出児の中心的課題を設定したうえで教科の授業づくりを構想・実施した。



- ②授業づくり成果発表会（VTRによる授業参観・協議会）



## 文献

安藤隆男（2001）自立活動における個別の指導計画の理念と実践 川島書店  
北川貴章・安藤隆男（2019）「自立活動の指導」のデザインと展開 ジアース教育新社